

二〇二二年一月二日

体育館凍つに健康体操す
寒風にたてがみなびく御崎馬
吉書揚花丸の書をしみなく
洞に在す無縁仏に初日影
駄菓子屋にバス待つ子らへ冬日燦
水仙郷ダイヤ通りにバスは来ず
本堂の影を正せる寒の月
新しき眼鏡の向かう寒茜
リハビリの足を延ばしぬ探梅行
恙なく笑みて跨ぎぬ去年今年
検問の灯の弧を描く寒風裡
福寿草出でて白砂を零しけり
寒林に出会ふ郵便配達夫

はく子
素 秀
かかし
うつぎ
素 秀
よし子
よし子
む べ
素 秀
宏 虎
うつぎ
よう子
うつぎ

大粒の苺供へて父悼む
初売の抽選会は外れなし
懷手せしままに聴く訃報かな
あたたかや鳥語ゆたかに宮の森
寒稽古小さき拳が板を割る
降る雪や丹後に古し天主堂
大鳥居くぐりてよりの淑気かな
鰯酒の熱きを吹きて香に酔ひぬ
姉希望妹きぼう書初す
竹割るる音餅せり夜の雪
広縁へさす老松の初日影

なつき
かかし
うつぎ
わかば
小 袖
凡 士
こすもす
よう子
よう子
よう子
凡 士
愛 正

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年一月三日